

平成七〇十二年  
ブロック長

阪本 勝義様



近畿第二ブロックが三十周年を迎えられました事を心よりお慶び申し上げます。その間、坐忘齋御家元、鵬雲齋大宗匠の指導を頂き、大きな成果を積み重ねられ、宗家お膝元のブロックとして恥ずかしくない立派なブロックに成長された事に敬意を表します。

これも偏に、ブロック内の親先生方、秋山圭一先輩、中谷庄八先輩、松野隆一先輩、池田周弘先輩をはじめとする先輩諸兄の御指導と時代時代の会員各位の努力の賜と感謝と敬意を申し上げます。

思い起こしますと、私がブロック長をさせていた頃は社会の変化に対応した新しい時代の新しい青年部にするため、会員がより楽しめる青年部にする組織改革を行ない七青年部から十二青年部になり、各青年部において個性ある様々な事業が行われた時期でした。

また、新青年部二十一世紀ビジョン「スピリッツ二十一」の3S、ストライブ・より高いものを求めて努力する、スタディ・自身を高めるために修練する、サーブ・豊かな社会づくりに奉仕する（世界平和のために）の基本理念を浸透させることが大切でした。

青年部が行うべき事とブロックが行うべき事を明確にして、ブロックの事業を組み立てることにしました。そして、ブロック研修会を最重点事業とし、未来に向かっの青年部活動のための自己啓発と活動の一助とするため、ブロック研修会

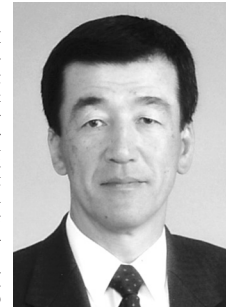
で青年部の基本理念と目的を理解し、公益社団法人としての組織運営を身につけ、実技向上の研修も行い、交流の場が少なくなっているブロック内の各青年部の情報交換と友情を育むことに重点を置き、ブロック研修会の充実を基本に活動し

当時の西川副ブロック長や委員長の方々と楽しく厳しく活動したことが良い思い出です。

竹は節があるから強いと言います。三十周年を大きな節目として強く発展することを願っております。

平成十三〇十六年  
ブロック長

廣田 元孝様



茶道裏千家淡交会青年部近畿第二ブロック設立三十周年誠にめでたうございます。

大宗匠様、御家元様、御宗家の皆様、総本部、親先生のお導きの下、十二青年部の皆様が、お互いに協力しブロックを盛り立ててこられたからこそ記念すべき年を迎えられたことと敬意を表します。

私は平成十三年阪本勝義ブロック長の後任としてブロック長を拝命し二期四年務めさせて頂きました。また平成十五年、十六年には併せて全国代表者会議議長も務め、得難い経験をさせて頂き感謝致しております。

さて書棚にある当時の「同風」を見ますと平成十三年二月に「茶道フォーラムIN和歌山」と称し御家元（当時は若宗匠）をお迎えし和歌山マリーナシティで近畿二ブロック共同でフォーラムを開催、六月には第九回裏千家青年の船が天津、

北京、大連に向けて出帆。ブロックからは十六名が乗船。私は初めて参加しました。若宗匠を団長に三五〇名で構成「心の絆」をテーマにお茶を中心とした多彩なプログラムで楽しい思い出になりました。

平成十四年には青年部発足十周年記念旅行で松江、出雲に行き山陰ブロックの皆様のお世話で第十一代長岡住右衛門氏の楽山窯、松平不昧公のお茶室等を拝観することが出来ました。翌十五年三月には近鉄電車を貸し切って伊勢方面に日帰り旅行に行きましたが、この時は東海ブロックの皆様にお世話になりました。九月には第十三回全国大会（坐忘齋若宗匠御家元継承記念）が開催され全国十六ブロックリレー茶会で大会を盛り上げると共に、御家元の継承を寿ぎました。

さて、楽しかった思い出を書き連ねてしまいました。ブロックは青年部間の連絡調整機関であり懇親の場。そして他ブロックと交流出来る場だと思えます。出向される方は忙しくて大変だとお察ししますが是非皆様で知恵を出しあってお楽しみください。今後益々のご隆盛を祈念いたしております。

平成十七〇十八年  
ブロック長

小森 克也様



近畿第二ブロック三十周年おめでとうございます。

三十周年を迎えるにあたり、これまで諸活動にご協力いただきました。お家元、ご宗家の皆様、総本部、親先生、先輩方のご指導に心より感謝申し上げます。

三十年の内、二十年以上をブロックで過ごしました。始めは自分が楽しむだけでしたが、最後の十年は、役員・全国委員として、企画・運営に携わることになりました。

私が副幹事長・幹事長の頃は、研修会も予算が限られており、研修会場もお金のかからないお寺や公営施設が多く、内容もスタッフ手作りのものが多かったように思います。そのため委員会の負担も大きく、大変苦勞しましたが、終わった後の充実感も大きなものがありました。現在では会員が減ったこともあり、スタッフに負担をかけるようです

が、これは致し方ないことなのかもしれません。

ブロック長のときには、全国大会において近畿第一ブロックとともに茶席を担当させて頂いたことも楽しい思い出です。アピールタイムも、近畿第二の結束を固める、よい機会でした。

ブロックスタッフ時代からの友人で、私がブロック長に指名した八木新君が、ブロックの発展に尽くし、海外交流事業まで成し遂げようとしたその直前に急逝されたことは、非常に残念でなりません。

利休居士から続く四百年以上の茶の道の歴史の中で、私がお茶に関わらせて頂いているのは、次の百年、二百年につないでいくための一部を担わせてもらっているのだと思っています。八木君ももちろんその一部をしっかりと担ってくれました。

今、青年部で活躍されておられる皆さんがさらに次を担い、つないでいってくださることを心から期待いたしますとともに、私も陰ながら応援させていただきます。

